



あかるいまち 21

2012 国際協同組合年 ホームページはこちら♪→<http://www.hch.coop/>

組合員活動ニュース No.679

2012年10月15日(月)

広島中央保健生活協同組合

組織部 TEL082-532-1264

FAX082-532-1267

みんなの思い、届けよう！もしもプロジェクト開催

10/11(木) 13:30～ 生協けんこうプラザ5階にて、もしもプロジェクト第2弾「医療内容7本柱実現プロジェクト」が開催されました。第2弾のテーマは、新病院の医療構想「3つの使命と7本柱」のうち、設計図面に関わる5分野について参加者37人の英知を寄せ集めました。5つの分野と関係が深い部署や担当者職員より詳しい説明を受け、参加者がそれぞれ興味関心の湧いたテーマに分かれて討議しました。第1回PJでの討議内容とともに基本設計に活かしていきたいと思えます。下記にて寄せられた意見・提案を紹介します。なお、矢印マーク「⇒」は、意見に対する回答です。

【① 24時間365日の医療／報告者：看護部 原田副総師長】

- ・ 組合員に加入して患者と職員の距離が縮まったことで、患者の気持ちや要望を伝えやすい良い病院と言われた。
- ・ 夜間、救急対応していることを知らない人が多いため、もっと広く地域に知らせていこう。

【② 回復期リハビリテーション／報告者：リハビリ 竹本師長】

- ・ 母が大腿骨(太ももの骨)を骨折した。もっとリハビリを受けたかったが他院では転院を迫られた。回復期リハビリ病棟の説明を聞いて、きちんとリハビリが受けられることに安心。
- ・ 回復期リハビリ病棟では、日祭日に関係なくリハビリを受けることができる点も魅力。セラピストの確保と育成が重要になる。
- ・ 厚労省の政策に乗せられているように感じるが、組合員のニーズに応えられる病院にしてほしい。

【③ 健康づくりとまちづくり／報告者：健診センター植田副主任】

- ・ 健診を受ける必要性をあまり感じていない若者や健康に自信のある方に対して、その必要性をきちんと伝えていこう。



【5つの分野に分かれて討議】

⇒ 若者を対象にした健診コースを設定するなど考えていきます。

- ・ ドック健診は検査項目によって院内を移動しなければならない。スムーズかつ外来患者と交わらない動線になるよう配慮してほしい。検査室の前の通路に待合を確保できないか。
- ・ 将来、検査項目の増加や新規検査機器を置くスペースを確保しておくべきではないか。吹き抜けは本当に必要なのか。

⇒ 吹き抜けは1階待合に開放感を持たせ、圧迫感のない環境でお待ちいただく意味で是非吹き抜けを取り入れたいと思っています。

【④ 災害時医療／報告者：浴長副事務長】

- ・ 災害時、どう動くべきか、どこに何があるのかみんなが把握しておく必要がある。
- ・ 災害時、どの病院がどのような機能を果たすのか医療機関同士で申し合わせが必要。
- ・ 雨水の再利用を検討してはどうか。蓄電池の設置を検討してはどうか。

【⑤ 組合員と職員が協同する病院／報告者：看護部 岡田総師長】

- ・ 事業所利用委員会は組合員と職員の架け橋。もっと組合員が参加できる場所をつくろう。
- ・ 職員は班会に参加することを、組合員は職員を班会に呼ぶことをお互い遠慮せずに行う。